

見えない人、見えにくい人、見える人、すべての人の - 感じる彫刻展 - 触る・聞く・嗅ぐ・話す・見る

●前期 [三輪途道 個展] 観覧無料

2022 年

10月3日(月)～29日(土) 開館時間：9:30 - 17:00

* 祝日(スポーツの日)・日曜日は休館

【前期関連事業】

- 10月1日[土] 10:00-12:00 注)この日は彫刻展会期中ではありません。
ワークショップ①「見えない人、見えにくい人、見える人が一緒に鑑賞するには、どんな方法があるか考える」WS
*ともにいろいろな鑑賞方法をみつける仲間を募集します。参加希望者は、あらかじめ下記へご予約ください。

- 10月8日[土] 13:30-15:00

いろいろ鑑賞会①「見えない人、見えにくい人、見える人、誰でも参加できる」鑑賞会

*一緒に「いろいろな鑑賞」を楽しみましょう。どなたでも参加できます。参加希望者は、下記へご予約ください。

ワークショップ①・いろいろ鑑賞会①への参加申し込みは、FAX (0274-84-2117) または HP (<https://menoki.org/>) から申し込みください。
なお FAX での申し込みについては希望事業(ワークショップ①/いろいろ鑑賞会①)を明記して参加者代表名、人数、連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)等も明記してください。

問い合わせ：一般社団法人メノキ tel 090-9014-4214 (*申し込みは FAX、HP からお願いします。)

- 10月15日[土] 13:30-15:00 *先着30名まで。申し込み不要ですが、当日13:10までに受付してください。
「絵本 みえなくなったちょうこくか 制作裏話」立木寛子(著者)と三輪途道による対談

- 10月22日[土] 13:30-15:00 *先着30名まで。申し込み不要ですが、当日13:10までに受付してください。
「みえない人が表現すること」多胡 宏(元県立盲学校校長・版画家)と三輪途道による対談

- 10月29日[土] 13:30-15:00 *先着30名まで。申し込み不要ですが、当日13:10までに受付してください。
「見るって何？」伊藤亜紗(美学者)と三輪途道による対談

■後期 [グループ展] 観覧無料

カナイサワコ／齋木三男／野村たかあき／林 耕史／丸尾康弘／三輪途道
／群馬大学教育学部美術専攻彫刻研究室学生

2022 年

11月7日(月)～12月3日(土) 開館時間：9:30 - 17:00

* 祝日(勤労感謝の日)・日曜日は休館

【後期関連事業】

- 11月5日[土] 10:00-12:00 注)この日は彫刻展会期中ではありません。
ワークショップ②「見えない人、見えにくい人、見える人が一緒に鑑賞するには、どんな方法があるか考える」WS
*ともにいろいろな鑑賞方法をみつける仲間を募集します。参加希望者は、あらかじめ下記へご予約ください。

- 11月12日[土] 13:30-15:00

いろいろ鑑賞会②「見えない人、見えにくい人、見える人、誰でも参加できる」鑑賞会

*一緒に「いろいろな鑑賞」を楽しみましょう。どなたでも参加できます。参加希望者は、下記へご予約ください。

ワークショップ②・いろいろ鑑賞会②への参加申し込みは、FAX (0274-84-2117) または HP (<https://menoki.org/>) から申し込みください。
なお FAX での申し込みについては希望事業(ワークショップ②/いろいろ鑑賞会②)を明記して参加者代表名、人数、連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)等も明記してください。

問い合わせ：一般社団法人メノキ tel 090-9014-4214 (*申し込みは FAX、HP からお願いします。)

- 11月19日[土] 13:30-15:00 *先着30名まで。申し込み不要ですが、当日13:10までに受付してください。
アーティストトーク 齋木三男+三輪途道 (+メノキメンバー)

- 11月26日[土] 13:30-15:00 *先着30名まで。申し込み不要ですが、当日13:10までに受付してください。
アーティストトーク カナイサワコ+丸尾康弘 (+メノキメンバー)

- 12月3日[土] 13:30-15:00 *先着30名まで。申し込み不要ですが、当日13:10までに受付してください。
アーティストトーク 林 耕史+群馬大学教育学部美術専攻彫刻研究室学生 (+メノキメンバー)

❖展覧会会期中の11月23日[勤労感謝の日]の「まゆだまネットフェスタ 2022」(主催：群馬県視覚障害者等支援ネットワーク「まゆだまネット」/於：群馬県社会福祉総合センター)において三輪途道の作品展示を行う予定です。

❖視覚に障がいのある方の鑑賞希望がある場合、一般社団法人メノキ tel 090-9014-4214 まで問い合わせいただければ鑑賞のお手伝いをいたします。

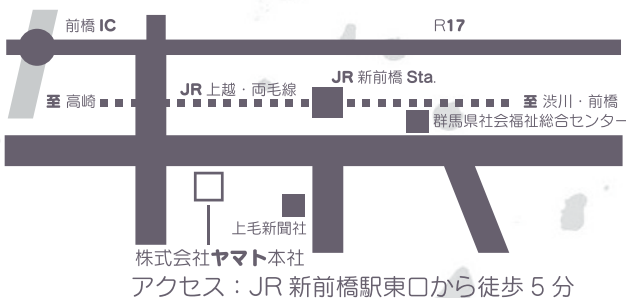
❖感染症対策その他諸事情で関連事業のプログラムが変更になる場合があります。

会場：株式会社ヤマト本社 1F ギャラリーホール

主催：「視覚障がい者と晴眼者のための共生芸術活動環境創造プロジェクト」実行委員会

共催：株式会社ヤマト

協力：朝日印刷工業株式会社・アーツ前橋(アーツナビゲーター)・群馬大学共同教育学部美術教育講座
株式会社ジーンズ・中之条ビエンナーレ・一般社団法人メノキ



アクセス：JR 新前橋駅東口から徒歩 5 分

【会場についてのお問い合わせ】

株式会社 ヤマト

本社 1F ギャラリーホール

〒371-0844 群馬県前橋市古市町 118

tel 027-290-1800 (代) fax 027-290-1896

url: www.yamato-se.co.jp

この展覧会の名称とテーマは

『**ミルコト ミエナイコト サウルコト**』です。

前期の個展を行う彫刻家、三輪途道は、伝統的な木彫の技法で仏像・神像彫刻などの制作に携わりながら、独自の現代的感覚で、肖像彫刻をはじめ日常生活の断片を拾い上げた作品群も制作してきましたが、15年ほど前から網膜色素変性症を患い、徐々に視覚が衰えて現在全盲の状態にあります。しかし、その制作意欲は止むことなく、それまで培ってきた造形感覚を駆使して、独自の表現境地を切り開きつつあります。

本展の始まりは三輪途道が視覚に障がいを持ったことです。三輪が視覚を失ってはじめて感じたことのひとつに、美術作品を自分と同じ境遇の人たちに鑑賞してもらえないだろうか？という思いがありました。作品に直に触れてもらう工夫や、視覚障がい者と晴眼者が一緒に鑑賞する機会と環境をつくりたいと考えたのです。視覚障がい者と晴眼者の共生芸術活動や環境創造を行う試みに賛同した作家たちがサウルコトのできる作品を持ち寄って、見えない人、見えにくい人にも鑑賞できる - 感じる彫刻展 - 『**ミルコト ミエナイコト サウルコト**』を開催するはこびとなりました。

ここでは、出品作品に直接触れたり、言葉による解説など、さまざまなアプローチで作品を鑑賞することができます。芸術作品が分け隔てなく多くの方々に届くように実践研究する機会となり、視覚障がい者の皆さんへの鑑賞サポートをするボランティアの実践研究ワークショップにもなります。出品作家による解説会、専門家や教育者の方々によるトークなど、充実した関連事業がもりだくさん用意されています。

「触る・聞く・嗅ぐ・話す・見る」を駆使する感じる彫刻展をお楽しみください。

トーク、対談登壇者



伊藤亜紗／いとう あさ

東京工業大学科学技術創成研究院未来の人類研究センター長、リベラルアーツ研究教育院教授。MIT 客員研究員（2019）。専門は美学、現代アート。もともと生物学者を目指していたが、大学3年次より文転。2010年に東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻美学芸術学専門分野博士課程を単位取得のうえ退学。同年、博士号を取得（文学）。主な著作に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社）、「どもる体」（医学書院）、「記憶する体」（春秋社）、「手の倫理」（講談社）。WIRED Audi INNOVATION AWARD 2017、第13回（池田晶子記念）わたくしつまり Nobody 賞、第42回サントリー学芸賞受賞。



多胡 宏／たこ ひろし

1957年群馬県生まれ。80年筑波大学芸術専門学群卒業。群馬県内の小学校、特別支援学校にて教諭、部主事、教頭、校長として勤務。盲学校在職時にTOM賞入賞。94年『こころのかたち』（群馬県の視覚障害をもつ子供たちの作品集を出す会）出版。第14回ぐんま教育賞「杉の子賞（教職員の一部）」優秀賞。定年退職後、群馬大学大学院教育学研究科に入学し、盲学校美術科教育を研究。21年『視覚障害のためのインクルーシブ学習』編集執筆協力。



立木寛子／たちき ひろこ

1956年群馬県前橋市生まれ。全国紙記者を経て84年からフリーランスライター。医療・看護分野のルポルタージュ、企業ノンフィクションを中心に手がける。著書『ドキュメント看護婦不足』『こわがらないで・乳がん』『いのち愛して 看護・介護の現場から』『沈黙のかなたから 終末期医療の自己決定』（以上朝日ソノラマ）。『爺さんとふたりープレ介護とリアル介護の日々』（上毛新聞社）。22年7月「みえなくなっちゃようこくか」（メノキ書房）出版。



カナイサワコ

1982年群馬県前橋市生まれ。09年武蔵野美術大学大学院彫刻コース修了。13年 前橋中心商店街にアートスペース Maebashi Works を共同でオープン。日本民具学会／NPO 法人文化財保存支援機構所属。08、09、12、15年個展（藍画廊／銀座・京橋）。08年「The rising generation 6」（渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館／渋川）。13年アーツ前橋開館記念展「カゼイロ／ハナ-未来への対話-」（アーツ前橋／前橋）。14年個展「Grayscale」（ya-gins/ 前橋）。17年「群馬の美術 2017- 地域社会における現代美術の居場所」（群馬県立近代美術館／高崎）。19年個展「Revers River」（Maebashi Works／前橋）。21年 River to River 「inner flow scape」（広瀬川美術館／前橋）等。ワークショップ多数。



齋木三男／さいき みつお

1975年群馬県中之条町生まれ。一級石材施工技能士。18歳から石彫家、故加藤亮氏に弟子入り。5年間の丁稚奉公の後、帰郷。伝統的な手彫りでの石彫を基本に、石仏からモニュメントまで制作する傍ら、様々な展覧会や芸術祭に作品を出品するなど、活動は多岐にわたる。2005年、中之条の霊山嵩山にまつられた観音群の修復を行う。14年県のマスコット「ぐんまちゃん」の石像を制作。中之条ピエンナーレ 2015、2021年実行委員長。19年 AWANO Art Festival（鹿沼）参加。21年個展「石しか知らない」ピエントアーツギャラリー高崎。<http://www.saikistone.com/>



野村たかあき／のむら たかあき

1949年群馬県前橋市に生まれる。83年木彫・木版画工房「てくの房」を開く。『ばあちゃんのえんがわ』で、第5回講談社絵本新人賞を受賞。85年木彫壁画「風とわらべと」制作。89年版画モニュメント「ふるさと方言あそび」石造5基制作。90年『おじいちゃんのまち』（講談社）で、第13回絵本につぼん賞を受賞。第19回よい絵本にも選定される。94年日本の鬼の交流博物館（京都）にて「野村たかあき鬼の世界展」。97年県立高崎高等養護学校に木彫モニュメント「風神の子雷神の子」を制作。2003年高崎シティギャラリーにて「野村たかあき絵本原画展」。



林 耕史／はやし こうし

1960年長野県生まれ。上越教育大学大学院芸術系美術修了。「次代を担う彫刻家たち展」（日本橋三越本店・現代彫刻美術館）、「中之条ピエンナーレ」2011～2021（中之条町）、「触れる彫刻展」（信濃美術館）、林耕史展「RIN／月が眠る山」（渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館／渋川）、「前橋の美術 2020」（アーツ前橋）他。個展（AIS ギャラリー、有鄰館、画廊翠巒など）、現地制作・個展（Cloyde Snook Gallery/Colorado,USA）、「さわるアートカード」制作（長野県立美術館）、作品設置（三井ガーデンホテル豊洲ベイサイドクロスなど）。国画会会員・群馬大学教授。彫刻研究並びに美術教育、図画工作科教科書作成などに携わっている。



丸尾康弘／まるお やすひろ

1956年熊本県山鹿市に生まれる。82年東京造形大学彫刻専攻卒業。85年茅沼彫刻シンポジウム（北海道）に参加した後、群馬県榛名町に移住。89年なびす画廊で初個展。96年家族をモデルに坐像を制作開始。2000年第24回上毛奨励賞受賞。01年制作の場を桐生に移す。05年桐生市本町一丁目にモニュメント設置。15年『丸尾康弘作品集』出版。19年「詩をかたどる、詩をさざむー祈りの庭へ。」（高崎市美術館）。20年「桐生のアーティスト」（大川美術館）、「丸尾康弘展 今、こどもたち」（渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館／大川美術館）。21年丸尾康弘展「羊雲とポケットの小石」（島田美術館ギャラリー・熊本）。



三輪途道／みわ みちよ

1966年群馬県下仁田町生まれ。94年東京芸術大学大学院美術研究科保存修復技術専攻修了。94年ガレリア グラフィカ bis（東京）初個展。2001年高崎市美術館「リアルなココロ めかづけなココロー上原三千代展」。05年発電所美術館「量のしめりけー上原三千代展」。07年上原三千代から三輪途道に改名。21年富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館「富岡から世界を紡ぐ 三輪洗旗・途道展」他多数。21年「祈りのかたち」（上毛新聞社）を出版。

<https://www.michiyomiwa.com>

みること
みえないこと
さわること